

今週（8月26日から8月30日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、26日以降は資金需給上の大きな過不足はなく、日銀当座預金残高は週を通して概ね403兆円台で推移した。無担保コールO/N物は、週初から28日までは調達ニーズが強く、邦銀、証券業態を中心に▲0.05～▲0.04%のレンジでの出合いが中心となった。29日はやや調達レートを切り下げ、▲0.06～▲0.045%近辺での出合いとなった。30日は月末要因から調達ニーズが減退し、▲0.07～▲0.06%のレンジでの出合いが中心となった。この動きを反映し、無担保コールO/N物加重平均レートは週後半にかけて低下していった。ターム物に関しては、地銀業態を中心に、ショートターム物で▲0.04%近辺での出合いが見られた。

固定金利方式の共通担保資金供給オペは、30日に2W・15,000億円がオファーされ、応札額2,219億円（期落ち額2,307億円）の札割れとなった。

●レポ市場

今週のT/N GCは、▲0.120～▲0.080%のレンジでの取引となった。週を通して、業者の在庫ファンディングニーズや投資家の資金調達が入り、レートは落ち着いた水準で推移したが、30日にはビッドに回った業者の買いの影響で、一時▲0.10%を下回る水準での引き合いとなった。

SCは個別銘柄では2Y402～403、5Y133～140、10Y334～355、20Y164～169、30Y59～63、40Y11～12など、カレント銘柄近辺や、チーペスト周りの銘柄にビッドが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、需給環境の改善が見られ、3M物が▲0.165～▲0.155%程度で出合うなど全般的に強含みの展開となった。年末超えの銘柄についても、堅調な債券相場を反映し、6M物が▲0.270～▲0.255%、1Y物が▲0.286～▲0.275%の出合いと先週に引き続き堅調に推移した。

27日に実施された短国買入オペは、2,500億円でオファーされた。平均落札利回較差+0.009%、按分落札利回較差+0.008%と、在庫調整の売りから弱めの結果となった。

30日に実施された3M物の入札は、WI取引において▲0.180%から▲0.185%まで買い進まれる展開となったものの、平均落札利回▲0.1731%、按分落札利回▲0.1623%とWI取引ほどの強さは見られない結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでは、一時▲0.174%での出合いが見られた。その後は▲0.168～▲0.165%出合いと按分レート近辺で推移した。

●CP市場

今週のCP発行市場は週間償還総額1兆5,000億円程度に対して、週間発行総額1兆6,500億円程度と発行超であった。月末発行にかかり鉄鋼・機械・石油業態等の幅広い業態において発行が見られ、非常に活況であった。事業法人の発行残高は先週末に引き続き19兆円台と過去最高水準を維持している。市場残高は21兆円台での推移となった。発行レートについては、引き続き業者の玉確保のニーズは旺盛であるため発行量が少ない銘柄や期越え銘柄ではやや強めの買いが散見されたが、CPオペを睨んだ業者の積極的な買いは見られなかった。例年、事業法人の有利子負債削減から、9月末の残高が著しく落ち込むため、それに応じてCPオペの足切レートが低下する傾向にあるが、足許では最高水準の発行残高となっているため、9月のCPオペのレート低下があまり期待できないことが発行レート下支えの要因として考えられる。

27日にはCP等買入オペが、予定額から500億円増額のオファー額3,000億円で実施された。今回は応札可能銘柄が非常に多く、月末スタートであるため、前回より増額されたとみられるものの、在庫の入れ替えニーズが強く、平均落札レート0.002%・按分レート▲0.001%と、前回（平均▲0.001%・按分▲0.001%）比で平均レートが上昇する結果となった。

●短期金融市場関連指標

	日経平均 (円)	新発10年物 国債利回り (%)	為替 (ドル/円中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レポレート(翌日物・ T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 (億円)
8/26 (月)	20,261.04	△ 0.280	105.25	△ 0.047	△ 0.083	4,037,500
8/27 (火)	20,456.08	△ 0.270	105.84	△ 0.041	△ 0.090	4,041,600
8/28 (水)	20,479.42	△ 0.275	105.79	△ 0.043	△ 0.087	4,036,400
8/29 (木)	20,460.93	△ 0.290	105.92	△ 0.050	△ 0.090	4,034,600
8/30 (金)	20,704.37	△ 0.280	106.43	△ 0.061	△ 0.089	4,036,500

来週（9月2日から9月6日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定	海外主要経済指標
9/2 (月)	4-6月期の法人企業統計調査季報(財務省 8:50)		New York祝日 (Labor Day)
9/3 (火)	財政資金対民間収支前月実績/当月見込み(財務省 15:00) 8月のマネタリーベース(日銀 8:50)	10Y 21,000億円 9/4発行	7月の米建設支出 8月のISM 製造業景況指数
9/4 (水)	FIN/SUM 2019において黒田総裁講演 函館市金融経済懇談会において片岡審議委員講演 9月の日銀当座預金増減要因見込み(日銀 8:50)	交付税借入 10,600億円 9/13借入	米ページブック 7月の米貿易収支
9/5 (木)		30Y 7,000億円 9/6発行	7月の米製造業新規受注・出荷・在庫 8月のISM 非製造業景況指数
9/6 (金)	7月の全世帯家計調査(総務省 8:30) 7月の毎月勤労統計調査速報(厚生労働省 8:30) 8月のマネタリーベースと日本銀行の取引(日銀 8:50) 7月の景気動向指数速報(内閣府 14:00)	TB3M 43,000億円 9/9発行	8月の米雇用統計 4-6月期のユーロ圏GDP確報値

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
9/2 (月)	900	▲ 32,000	▲ 31,100	国債買入 全店共通 CP買入 社債買入 国債補完		12,400 2,200	12,400	▲ 18,700	財政融資資金の回収 TB3M発行▲42800償還42800 2Y発行▲20000
9/3 (火)	0	▲ 14,000	▲ 14,000				0	▲ 14,000	
9/4 (水)	0	▲ 40,000	▲ 40,000				0	▲ 40,000	年金保険料揚げ 法人税・消費税揚げ 普通交付税 10Y発行▲21000 交付税借入▲10500期日10500
9/5 (木)	0	2,000	2,000				0	2,000	
9/6 (金)	▲ 1,000	▲ 4,000	▲ 5,000				0	▲ 5,000	30Y発行▲7000 交付税借入▲10500期日10500
週間合計	▲ 100	▲ 88,000	▲ 88,100	—	▲ 2,200	14,600	12,400	▲ 75,700	

9/2は日銀予想、9/3以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、資金需給上の不足日が多い週となる。4日には交付税の払いと税揚げが予定されており、調達サイドの動向が注目される。無担保コールO/N加重平均レートは▲0.06～▲0.05%での推移を予想する。レポ市場は、積み後半にかけて投資家の資金調達もある程度は継続していくとみられるものの、▲0.120～▲0.080%のレンジでの推移を予想する。短国市場は、6日に3M物の入札が実施予定となっている。良好な需給環境がどこまで継続するか、市場動向が注目される。CP市場は、来週は5日にCP等買切オペが3,500億円と今年度最高額で実施予定となっている。9月は同規模のオペが計3回予定であり、1回目の足切レートがどれほど低下するかが注目される。また、9月末越えの発行がどれだけ膨らむかも注目される。

主要なイベントとしては、6日に8月の米国雇用統計、4-6月期のユーロ圏GDP確報値の公表などが予定されている。

◆本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。

◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入